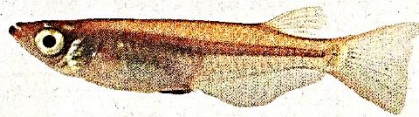
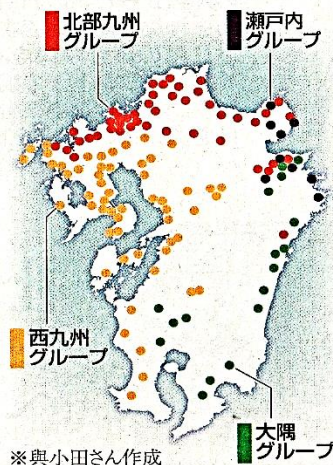


九州に4グループ



メ
ダ
カ

九州のメダカの遺伝子分布



※與小田さん作成

遺伝子に違い「安易な放流ダメ」

童謡にも歌われるメダカ。身近な魚だが、地域によって遺伝的な特徴が異なることはあまり知られていない。地域に生息する独自のメダカを大切にしておくと、福岡市の元小学校長、與小田寛さん(66)が、九州のメダカの遺伝子分布について冊子にまとめた。生物の多様性を理解するきっかけになりそうだ。

(堀家路代)

福岡の元小学校長 冊子作製

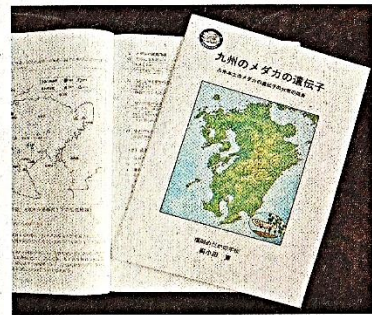


冊子「九州のメダカの遺伝子」は残り50冊ほどで、希望者に700円(郵送費込み)で配る。問い合わせは與小田さん(092・807・9251)へ。

教授(遺伝学)に送り、遺伝子を解析してもらった。日本には、青森県から兵庫県の日本海側に生息する「キタノメダカ」と、それ以外の地域の「ミナミメダカ」がいる。酒泉教授らの研究では、キタノメダカは3グループ、ミナミメダカは10グループ前後に分かれ、九州にはこのうちミナミメダカの4グループが分布することが分かっている。

今回の與小田さんの調査によって、この4グループの分布の様子が詳しく分かった。酒泉教授は「九州のメダカの多様性を裏付けるデータ。学術的な研究が地域のメダカを守る役に立てばうれしい」と話す。

一方、今回の調査では、安易な放流による「遺伝的かく乱」が懸念される地域が多いことも分かった。8か所の川



與小田さんと冊子「九州のメダカの遺伝子」

冊子はA4判32ページ。與小田さんが長年の調査をもとに作製した分布図によると、福岡、佐賀県の玄界灘側の地域には「北部九州グループ」と呼ばれるタイプのメダカが生息している。一方で、有明海側には別の「西九州グループ」が分布している。距離が離れていたり、山に隔てられたりすることで、地域ごとに独自に進化し、遺伝的な違いが生まれるそうだ。

長崎、熊本県、鹿児島県西部には「西九州グループ」が多い。宮崎県から鹿児島県東部にかけては「大隅グループ」が分布する。瀬戸内海に面する大分県には「北部九州」「大隅」のほか、「瀬戸内グループ」と呼ばれるタイプも共存している。

與小田さんは、福岡県の小学校教諭らでつくるグループ「福岡めだかの学校」の代表。野生メダカの生態や、環境省のレッドリストで絶滅危惧Ⅱ類に指定されている現状を子どもたちに知ってもらおうと、毎年夏に講座を開いている。

メダカに興味を持ったのは、小学校の校長だった13年ほど前。地域の川にメダカを放流する活動にも参加したが、詳しく調べるうちに、放流によって異なる地域のメダカが入ってきて、地域のメダカと交雑する「遺伝的かく乱」という問題があることを知った。どの地域にどんなタイプのメダカがいるのかを知ろうと、2008年から6年かけて九州の175か所で約1800匹を採集。生きたままペットボトルに詰め、メダカの遺伝子調査を手がける新潟大の酒泉満

や池で、九州にはいないはずの東日本の遺伝子型が見つかった。この型は市販メダカに見られるタイプで、学校の近くで採集されるケースが多かったことから、理科の実験などに使われたメダカが放された可能性が高いという。

與小田さんは冊子を学校関係者に読んでもらいたいと、九州各地の教育委員会や教育事務所に配布した。「地域には独自のメダカがいる。ふるさとのメダカを守るため、放流はしないでほしい」と呼びかけている。